



しあわせ  信州

みんなに居場所と出番をつくる

中学生と関副知事との 意見交換会

「学校での意見表明、学校のきまり・校則について考えよう！」開催結果

2025年11月30日（日）開催

主催：長野県県民文化部こども若者局次世代サポート課

委託事業者：株式会社C&Yパートナーズ

—— イベント概要 ——

この意見交換会は、若い世代が活躍できる社会の実現に向け、中学生の生の声を長野県の施策に反映させることを目的として開催しました。

開催日時：2025年11月30日（日）10:00～12:00

場 所：松本市中央公民館（Mウイング）3-2大会議室

テ ー マ：学校での意見表明、学校のきまり・校則について考えよう！

参 加 者：長野県内在住の中学生 16名

主な出席者：関 昇一郎 （長野県副知事）

山本 晃史 氏（認定NPO法人カタリバ）

角野 仁美 氏（株式会社C&Yパートナーズ / 全体進行）



01. / 当日の様子：オリエンテーション

はじめに、意見交換会の目的と 参加の心がまえを共有

「より良い長野県をみんなでつくるために、今日は集まったメンバーと意見交換をしてみよう！」という掛け声からスタート。主催である、長野県県民文化部こども若者局の馬場次世代サポート課長 からも挨拶がありました。

また、参加の心がまえとして「思ったことを言葉にしてみよう」「質問や提案也大歓迎！一緒にこの場も創ろう」というメッセージが伝えられました。



02. / 当日の様子：グループで自己紹介

4マスシートを使い、自己紹介 リラックスした雰囲気へ

学年・学校がバラバラなメンバー4人でグループを作り、
お互いに自己紹介をしてもらいました。

- ①名前（ニックネーム）
- ②学校・学年
- ③最近の推し・好きなもの
- ④11月の思い出

お互いの共通点が見つかり、積極的に質問をし合う姿も
見られ、和やかな雰囲気が生まれました。



03. / 当日の様子：アンケート結果の共有と「全体講演」

こどもモニターに実施した アンケート結果の共有後、全体講演へ

長野県こどもモニターに事前に実施したアンケート調査の結果（概要）について資料を元に確認し、学校における意見反映の状況把握を行いました。

また講師の山本氏からは、校則を題材に生徒主体の対話でルールを見直す「みんなのルールメイキング」の実践を紹介いただきました。ルールとは「皆がどう過ごしたいか」という「願い」の体现であり、単に従うのではなく対話を通じて自分たちで更新していく重要性や、異なる立場の人々と「納得解」を見出すプロセスこそに価値があるというメッセージが伝えられました。



04. / 当日の様子：関副知事も交えた、全体セッション

これまでの講演内容や アンケート結果をふまえて、問いづくり

グループごとに感想共有をしつつ、講演内容やアンケート結果をふまえて「もう少しみんなと考えたいこと・深めてみたいこと」をテーマに、問いを考えてもらいました。

その後、中学生の皆さんから出てきた問いを、関副知事や講師の山本氏にぶつける形で全体セッション。例えば、

「周りが意見を出してくれるようになるには？」という問いに対し、一人ひとりに具体的に問いかけたり、意見を言いやすい空気を作る大切さ、単に意見を募るだけでなく、その裏にある個々の「願い」や背景を汲み取ることが大切だというコメントがありました。



05. / 当日の様子：グループワーク

テーマ：「もっと生徒の声が反映される学校をつくるためにどんなことが必要・大切か？」

グループごとに「生徒の声が反映される学校づくり」に向けたアイデアを書き出し、対話を行いました。学校の身近なルールの構築についてから、生徒会とは別の「みんなが気軽に意見を言い合える場や組織」の構築まで、多岐にわたる視点が生まれました。また校則やルールについて、背景にある「願いの見える化」を図ることや、先生と生徒が「互いの希望を聴き合う」ことで、先生と生徒がともに「納得解」を創る取組につなげていく重要性も見えてきました。



グループワークで出た意見（整理・分析）①

各テーブルでの模造紙の記録および全体発表の内容を、4つの視点で整理しました。

意見を反映させるための「プロセス」の工夫

- ・ 本音を引き出す場の設定： 大人数ではなく、少人数や友達同士のグループから話し始めることで、本音の意見を出しやすくなる。
- ・ 意思決定のハードルを下げる： 全校での決定時は、文章回答よりも「選択肢（はい・いいえ・わからない等）」を用いたアンケート形式にすることで、より多くの生徒が意思表示しやすくなる。
- ・ リーダーによる選択肢の提示： 生徒会役員などが「どこまで自由に換えられるのか」の範囲をあらかじめ示すことで、議論が具体的になる。

グループワークで出た意見（整理・分析）②

各テーブルでの模造紙の記録および全体発表の内容を、4つの視点で整理しました。

校則の「目的」と「透明性」

- 「校則は願い」という視点： 講師より「法（ルール）とは、その国や学校がどうあってほしいかという『願い』である」という提示があり、単なる規制ではなく、より良い生活を送るための手段としての再定義が必要。
- なぜダメなのかの可視化： 校則の裏側にある目的や願いを明確にし、「先生の自己満足」になっていないか、今の時代に合っているかを問い直す。
- 教育的意義の確認： 校則が「社会的なルールを学ぶ教材」なのか「学校の秩序維持」のためなのか、その目的が生徒に共有されていないことへの疑問。

グループワークで出た意見（整理・分析）③

各テーブルでの模造紙の記録および全体発表の内容を、4つの視点で整理しました。

先生と生徒の「対話」と「関係性」

- ・ 一方的な伝達からの脱却： 先生が「忙しい」ことを理由にアンケート等だけで終わらせず、双方向の話し合いの時間を確保する。
- ・ フィードバックの徹底： 生徒が出した意見に対して、どのような検討がなされたのか、結果をきちんとフィードバックする仕組みが必要。
- ・ 納得感の醸成： 先生と生徒で「互いの希望」を聴き合い、距離を縮めることで、双方が納得できる学校の仕組み（納得解）を作っていくことが大切。

グループワークで出た意見（整理・分析）④

各テーブルでの模造紙の記録および全体発表の内容を、4つの視点で整理しました。

具体的な改善提案と悩み

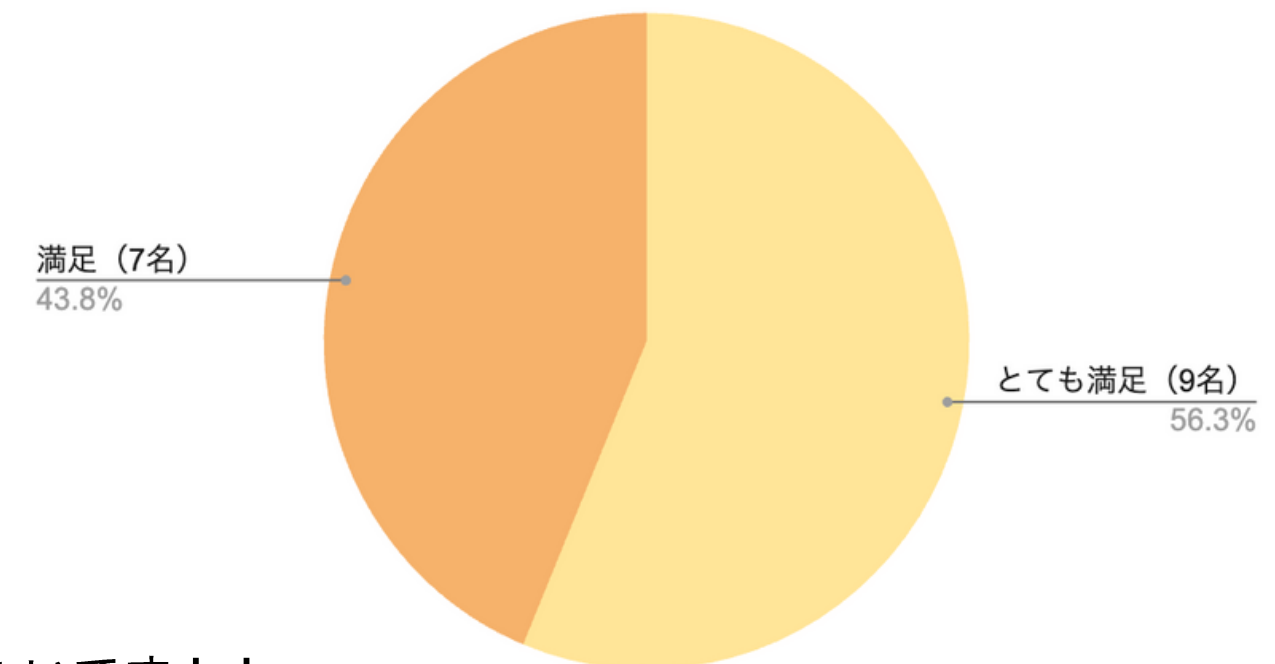
- ・ 選択制の導入： ジェンダー平等の観点からの制服選択制や、私服登校期間（私服Week）の設定などを具体的に検討してみる。
- ・ 防寒着等のルール： 「先生は良いのに生徒はダメ」といった、立場の差によるルールの矛盾に対する解消の要望。
- ・ 仕組みの継続性： 一時的な盛り上がりで終わらせず、生徒会以外の組織や、継続的に意見が反映される「学校組織文化」の構築。

参加者の事後アンケート（まとめ）

<1. 意見交換会へ参加した「満足度」と「その理由」>

- ・他校の校則や取り組みを知れたから。
- ・他の学校の現状や、決まりを全校で話し合う時の大切なことを学べた。
- ・知らない人といきなり話すのは緊張したけど意見交換を通して自分の考えが深まったから。
- ・普段、自分が学校の決まりなどについて思っていることを中々言う機会がなく、今日のこの活動を通して色々な意見をたくさんの人達と共有することができたから。
また自分の意見に賛同してくれる人もいて、同じことを思っている人がいるんだな、ととても安心した。
- ・話が盛り上がって、とても楽しかった。
- ・面白い話を聞けたし、勉強になったし、なんか学校を変えれそうな気がしてきた。
- ・同年代の方々と、友達同士では中々話し合えない学校の制度や、それぞれの学校の違いを知ったり話し合えたりしたから。
- ・最初は知らない人ばかりで不安でしたが、いざ話してみたらとても楽しく、それぞれの学校で行っている取り組みや現状を知ることができる機会だったので良かったです。
- ・他校の人とも話すことができたから。
- ・知らない人と話すのに緊張していたが、グループで活発に話し合いができて、山本さんの話も聞け、これからの学校生活に活かせそうだと感じたから。
- ・普段、中々聞く機会のない他の学校のことや、色んな取り組みを知ることができてよかったから。
- ・同じような考えの人と充実した意見交換ができて本当に楽しかったからです！メンバーを変えてまたやりたいです！！
- ・普段関わることのないような、県内の学校の人達と話し合いをする機会は、滅多にないので貴重で面白い体験になった。
また思ったことを言える空気感がすごくいいと思った。
- ・校則について関心のある人が集まり、実際に行って来たことやそこから学んだこと、考えたことを話し合えました。とても有意義な時間になったと思います。
- ・次行う際は、もう1時間ほど時間があるといいなと感じました。言いたいことがほとんど言えたが、グループ内で話す時間が短かったから。

意見交換会の満足度



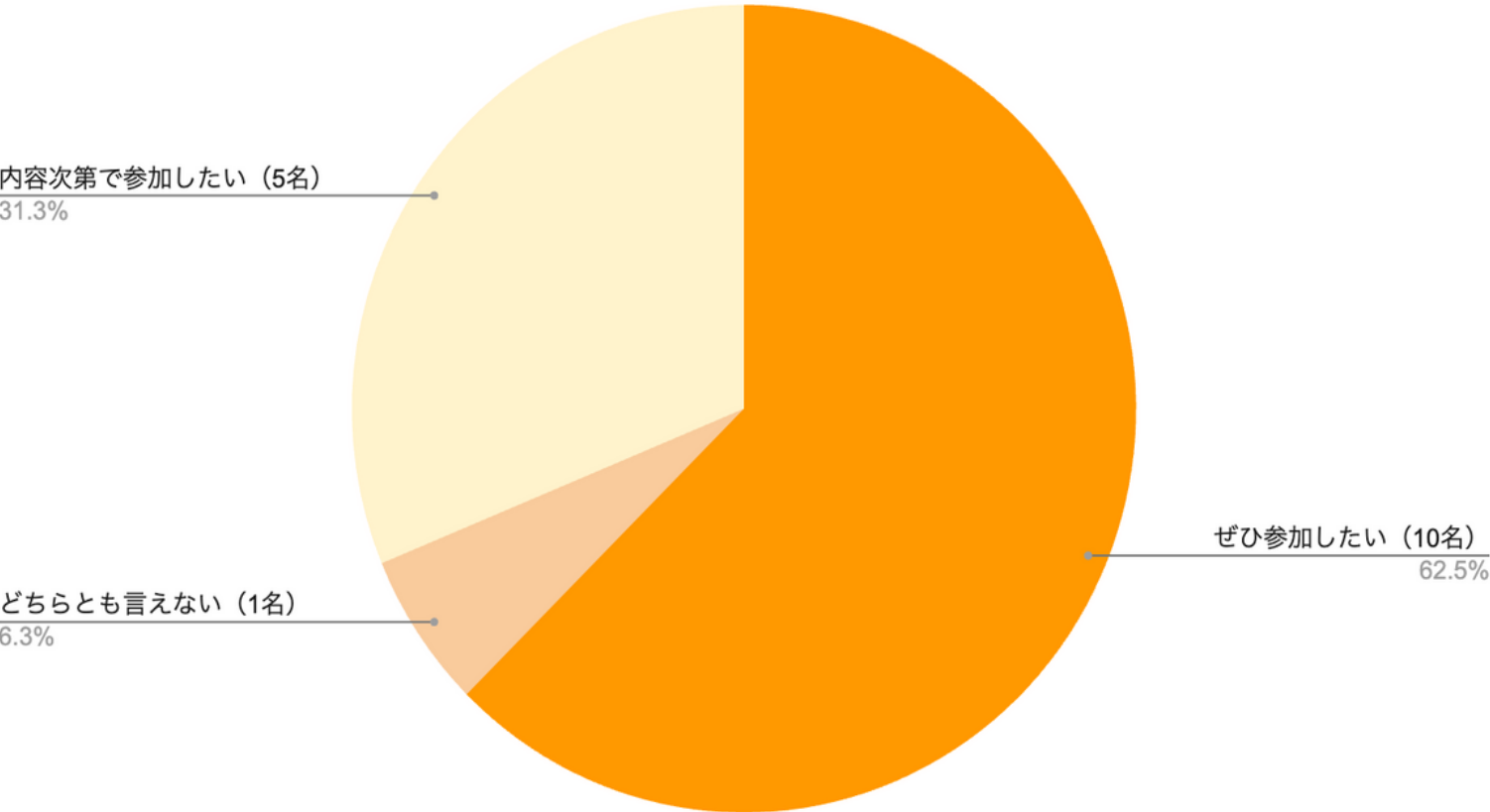
参加者の事後アンケート（まとめ）

<2. 意見交換会の中で言い足りなかったことや、伝えたいことがあれば自由に書いてください。（自由記述）【任意】>

- ・ 中信地区からの参加が少ないように感じたので、全県で行うのではなく、北信中信東信南信の地区ごとに分けて開催したら、その市町村の学生、行政と県でより濃い話し合いができると思った。
- ・ 制服の上に上着を着てはいけないのはなぜか？
- ・ 生徒指導の先生に聞いても、「大人は生徒より年上だから寒さを感じやすい」と言って笑われるだけで、あまり解決に至らなかった。なぜ先生は良いのか？
また、前は ダメだったと聞いたので、なぜ良くなったのか？立場の差によるものが大きすぎるのではないか。
- ・ と～ってもいい機会でした！ありがとうございました！
- ・ サポートルームについて話をしていたけど、返答が「声をあげてください」でしたよね？すでにそう言う人たちのために内申をなくすための署名運動をすでにしているそうです。
- ・ 問題になるべき行為なのに県はなぜ対応しない？声をあげても変わるかなんてわからない。このような人のために動くべき組織が「声をあげてください」は無責任だと思いました！
- ・ 私は規則を変えようと選挙に出たりアンケートを行ってきました。結果は落選してしまいましたが、風紀委員長として規則の見直しを行おうとしてきました。しかし、前例がないことや、協力的な先生がいなかったこと、他の仕事に追われてなかなか進めることができず、1年が終わろうとしています。私の学校では今までは規則について全校で話し合う場も設けられていませんでした。そんな状況で規則を変えることはとても困難です。だから、私は県で校則・規則を変える過程を大まかに示したものを決めれば前例のない学校でも少しは変えやすくなっていくと思います。私がそうであったように、初めてのことをすることは、とても難しいし、勇気のいることです。そんな初めて行うことを後押しするような制度があればいいなと思います。今回はありがとうございました。
- ・ 校則は、学校内の規則なのか、学校として社会的な規則を学ぶための教材であるのか、どんな目的で作られているののか知りたいです。

参加者の事後アンケート（まとめ）

今後、このような意見交換会やワークショップへ参加したいですか？



＜3. 今後、どんなテーマだったらよりこのような場に 参加してみたいと思うか、教えてください＞

- 今回のような内容
- こどもの社会参加
- 県知事、総理大臣等との意見交換会、今の政治や社会に対する意見交換会など。
- スキー場リフト券代
- 自分たちの生活に関わるテーマ、生徒会
- 今回のような中学生でも話しやすい、身近な話題のテーマ。
- これなんなんだ？ヘンな一般常識！
- 開放作戦～自分らしさとは？～
- プレゼンテーションで仲間を作る！
- 遊び方～日常に変化と彩を！～
- 学校に関すること、環境問題やジェンダー
- 学校に関することや制服についてなど学生の日常生活に影響するようなこと。
- 今回のような校則についてや身近な学校生活についての内容はとても話しやすかったので、このようなテーマだったらより参加してみたいと思います。
- 部活動などの、自分の好きなことについて触れられるなら、もっと参加したくなると思う。

みんなで創る「これからの学校」へのヒント

1. ルールは「みんなが幸せになるための願い」

校則やルールは、誰かを縛るための「決まり」ではなく、「どんな学校で過ごしたいか」というみんなの願いを形にするための道具です。お互いの想いを聴き合うことで、学校はもっと楽しく、大切な場所が変わっていきます。

2. 先生や仲間と本音で話して見つける納得解

ワークショップでは、制服や校則の見直しについて意見がたくさん出ました。大切なのは先生も「生徒に任せきり」にするのではなく本音で話し合い、みんなの納得解を共ににつくることです。この「納得」の積み重ねが、より良い学校を創る力になります。

3. 「声をあげていいんだ」という実感を未来へ

事後アンケートでは、全員が「参加してよかった」と答えてくれました。長野県には、今後も声をあげてくれた方の勇気や想いをしっかり受け止め、後押しする仕組み作りが求められています。みんなの声が届き続けることで、信州の未来はもっと明るくなります。